

探究学習の進め方や地域連携について
意見交換する参加者



地域と連携した探究学習とは

十和田

八戸学院大地域経営学部は10日、十和田市の「とわふる」で、「高校の探究学習とSDGsシンポジウム 高校と地域をつなぐ場」を開いた。青森県南方の高校教員ら約20人が参加し、地域と連携した探究学習の進め方について意見を交わした。

シンポジウムは2021年に始まり3回目。初めて上十三地域で開催した。地域と連携した探究学習の事例として、県立三本木農業恵拓高、百石高、三戸高の3校と連携する地域企業3社が、それぞれ

れ取り組みを紹介した。

観光地域マネジメント会社「バリューシフト」(八戸市)の木村優哉さんは、「先生と生徒という関係ではないから話しやすいこともあり、生徒の興味や関心を後押しできる」と外部が関わるメリットについて説明。一方で、校外活動時の事故対応や金銭面など、活動の難しさもあると話した。

その後、事例紹介で発表した3社の代表者と教員の数名のグループに分かれ、地域連携を進める上での注意点や課題について情報共有や意見交換を行った。

(向屋敷萌)